

为 ^{ウェイ} 了 ^ラ 明 ^{ミン} 天 ^{ティエン}

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

暑い夏!!

寧夏と貴州の山村に新しい小学校校舎が建ち、
たくさんの子どもたちの笑顔を見ました!

JCC 05年度 プロジェクト中間報告

8月、寧夏回族自治区南部固原県に、東京代々木ライオンズクラブが二つ目の小学校を建設しました。昨夏豪雨の中、黄砂に足を奪われながら事前調査を実施された後だけに、坪楽小学校竣工式参加の代表団と歓迎する子どもたち、村民たちの喜びはひとしおでした。同代表団は、同地域で8年に亘り継続している女性教師養成奨学金の贈呈式も行いました。

9月、貴州省凱里市三棵樹鎮に賞郎小学校の校舎が落成しました。2年前同鎮衛生院に母子保健センターを建設支援した際に参観した廃屋同然の同校が、同地域のモデル校になろうとしていました。同校舎新築の資金のほとんどは、JCC副代表理事の須藤雛さんのご寄付によるものです。須藤さんは、竣工式で、凱里市市長から「荣誉市民」の称号を授与されました。このことは、日中友好の証となり、JCCとして大変うれしいことです。

貴州省では、04年度の日本外務省「草の根・人間の安全保障無償」援助を受けた擺榔郷(バイパンシャン)衛生院の母子保健センターを視察しましたが、凱里市三棵樹鎮の母子保健センターに学び、母子の安全出産生育への自助努力が見られました。因みに、三棵樹鎮の妊婦に対する05年度援

助金(100名分/15万円)は、最終年度で、すでに送金しましたが、援助の継続を要請されました。

河北省易県小中学校の「机と椅子」支援については、「国際ボランティア貯金に係わる寄付の配分」に与かれず、急遽、奨学金基金より300名分/37万8000円を支援し、9月の新学期に間に合わせました。

図書セット寄贈先は、河北省易県の五つの小学校一大龍華郷小龍華高小・易州鎮后部小学・凌雲冊郷解村小学・西陵鎮太平峪小学・白馬郷七里北小学一と貴州省凱里市の賞郎小学となりました。

奨学金給付については、寧夏回族自治区の一部と内蒙古自治区・貴州省の受給生への送金が終わり、吉林省・河北省関係は受給生名簿到着後即刻送金する予定です。奨学金受給の児童生徒から支援者の皆様に、たくさんの感謝状が届いています。厚く御礼申し上げます。

現在、図書セット寄贈基金で20万円、奨学金基金で約10万円不足しています。

一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



惠水県の子どもたち

坪楽小学校校舎竣工式に参加して

——第13次訪中国(8/26-8/30)報告——

団長 田中 彰



私どものクラブは、今年の10月に創立35周年を迎えます。この記念アクティビティとして、固原市頭営鎮坪楽に350万円で小学校を建設いたしました。机・イス・校庭設備等は130万円かかり、これは地元負担ということになっておりました。私たちは、地元の負担を少しでも軽くしようと、LCIFという米国に本部を置く基金に支援を申請し、これが認められましたので、総額480万円の支援をすることができました。

竣工式が8月28日にあり、メンバー8人に新保・川崎JCC理事も特別参加されました。

昨年9月同校を視察し、その荒廃ぶりに驚きましたが、見違えるような新校舎に、私は一瞬、どこか別の所に来たのではないかと錯覚したほどです。開村は60年前ですが、私どもが初めて訪れた外国人であり、今回の竣工式は開村以来の一大イベントで、全校生・全村民に加え、プラスバンドの出迎えという熱烈歓迎に感動させられました。

また、固原師範高等専科学校を訪問し、奨学金の授与式と奨学生達との懇談会を行いました。奨学金給付は、東京代々木LC奨学金として9年間続いております。

さらに、5年前に建設した中河小学校を訪問いたしました。驚いたことに、日曜日であるにもかかわらず全校生徒と

全村民がプラスバンドで熱烈に出迎えてくれたことです。単なる視察でしたのに、その歓迎ぶりには感動するばかりでした。

私どもはアクティビティをする時に、三つのことに留意いたします。(1)実効性 (2)資金の透明性 (3)検証の3点です。

JCC並びに中国宋慶齡基金会を通すことにより、これ等が全てクリアされます。私どもは安心して奉仕活動をすることができます。

ライオンズクラブは、運営規則により、継続アクティビティがとても難しい組織になっております。

それにもかかわらず9年間も寧夏固原に対する教育支援が続いているということは、偏にJCCの存在のお陰です。



寧夏固原県坪楽小学校にて

今回は、4泊5日の強行軍でしたが、一言で言うと「疲労困憊と感動の旅」ということになります。中国宋慶齡基金会・寧夏教育庁・原州区教育局の異例ともいえるべき配慮と地元の熱烈歓迎は、目を見張るものがあり、社会奉仕の実感と喜びを、まさに体感した旅でした。



寧夏固原県坪楽小学校竣工式

賞郎小学校校舎建設を支援して

——第14次訪中団(9/3-9/10)報告—— 名誉団長 須藤 巖

2年前、この地域の母子保健センターを建設支援するために三棵樹鎮を訪れ、途上視察した賞郎小学校は、1960年代の家畜小屋を改造した廃屋同然のものでした。教室の子どもたちの生気の無さ、貧しい様子には、心が痛みました。帰国後、校舎再建の援助を求められたことを知り、何とかしなければと思いつけ、このたび、やっと実現しました。現地に着いて、二つの事にびっくりしました。

一つは、出迎えてくれた子どもたちの数が2倍ぐらいいなり、活気が見えて、しっかり立っていると感じました。

二つ目は、最近完成したばかりの白壁の3階建ての校舎と別棟の小さな校舎が校庭の2辺にあり、他の1辺に私たちが建設支援した校舎が完成間際の状態、赤い幕で飾られていたことでした。JCCが支援を決定する前に二組の援助者が現われ、このようなことになったとのことでした。現地教育局は、「計画を変更して、賞郎小学校を完全小学校(1~6年)にして、モデル的な中心校として発展させたい」と説明しました。家畜小屋校舎が記念物として片隅に寄せられ、寒村に一大文教地区が出現したわけです。私た



「荣誉市民」の称号を受ける須藤

ちは、状況の変化について連絡が無かったことに対する遺憾、別の寒村に資金を回したかったという思いを関係者に伝え、この経験を「凱里の教訓」とすることになりました。しかし、子どもたちに希望を与えることができたことを喜び、この地の人々の幸せを生む芽となることを信じたいと思います。

5日の賞郎小学校竣工式後、私たちは、どこか日本と相通じる苗族の風俗と風景を楽しみました。翌日は、JCCの支援する三棵樹鎮衛生院を訪ね、医師やスタッフと再会を喜び合いました。清潔になったこと、寄贈した医療機器が整然と、適切に管理・活用されていることには、感動すら覚えました。入院分娩を支援した母子も待っていてくれました。

7日、2年前の視察がきっかけで、日本外務省「草の根・人間の安全保障無償」援助を受けた恵水県擺榜郷(バイパンジャン)衛生院母子保健センターを訪ねましたが、ここでも三棵樹鎮衛生院に学んで自助努力が始まっていました。この訪問の際、工事中の坂道を登り山頂の村に辿り着いた時、1000人以上の小中学生が両側に並んで歓迎してくれた光景は忘れられません。珍しそうに見つめる黒い瞳、垢まみれの黒光りの手、手。ここにも間もなく文明の光が射すでしょう。



三棵樹鎮衛生院の前で

第一回 世界宋慶齡基金会主席フォーラムに参加して

久保田 博子

10月26日、中国・上海市の郊外、青浦区、明朝時代の風物の面影を残す別荘地の一角にある会議場で、第一回世界宋慶齡基金会主席フォーラムが開催されました。

開催趣旨は、宋慶齡精神(子どもの幸せと世界平和のための献身)を共有して、女性と児童の福利を謀るために討論し、経験を交換することでした。

発言者は、中国福利会・中国宋慶齡基金会胡啓立主席(代読)、中国福利会魯平副主席、中国宋慶齡基金会俞貴麟副主席、宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会久保田博子代表理事、オーストラリア宋慶齡基金会徐冠菊主席・余俊武副主席、イタリア宋慶齡基金会朱裕華主席、カナダ宋慶齡児童基金会童健主席、フィリピン宋慶齡基金会施



恭旗主席、上海宋慶齡基金会艾柏英副主席ほか幾人かのオブザーバーで、共通用語は、中国語と英語でした。

私は、故I. エプシュタインさんの言葉を引用して、「宋慶齡女史を理解する鍵は、彼女のDEVOTION(献身)にある」ことを語り、21年間に亘る日本における宋慶齡基金会活動を紹介し、多くの方々のボランティアと民間の小さなお財布からの継続的なご寄付によって支えられていることを伝え、私たちの活動は、「子どもたちに希望を与え、人々の間に友情を育むこと」を通して、「日中友好、アジアの平和、世界の平和共存のために小さな種をまくこと」を目指していると結びました。JCCから、ほかに井岡今日子・佐藤明子両理事が同席し、参加者総数は、70余名でした。



第7回
JCC
中国講座

東アジア共同体へのアプローチ — 地域は作られる —

講師：毛里 和子さん(早稲田大学政治経済学術院教授)

日時：2005年11月26日(土) 14:00~16:00

場所：八王子労政会館 第2会議室

参加費：500円

東アジアの地域主義が盛んです。12月にはマレーシアで第一回の「東アジア・サミット」が開かれます。敵対と分断の東アジアが共生と協力の地域になるのでしょうか？ところが、日本・中国・韓国の三国関係はけっして安寧ではありません。歴史問題のために「国民的和解」が済んでいないこと、日中がライバル関係に移っていることが背景にあります。その中で、「ひとびとのコミュニティ」を東アジアで展望することはできるのでしょうか。

双方の努力で 日中間の難局を打開しよう

東洋学園大学教授 朱 建榮



2005.5.7 JCC中国講座
に朱建榮さんを講師と
してお招きし、盛会で
した。ニュース発行に
あたり、特別寄稿を
いただきました。



今回の衆議院選挙で自民党が
圧勝したのは、日本国民が国内の構造改革を支持する気持ちの現れだ。一方、選挙後の世論調査では「首相は靖国神社参拝問題で近隣諸国に配慮すべきだ」という声が反対の声を大幅に上回り、日本国民のバランス感覚が示された。

日本を取り巻く外交環境は一段と厳しさを増している。小泉首相が四年連続でA級戦犯を合祀した靖国神社に参拝したことで、中国や韓国の国民の心が深く傷つけられた。アセアン諸国も内向きになりがちに日本に失望の念を募らせている。

「反日」デモは中国政府によって必死に抑えられており、4月以降、大規模なものとしては起きていない。しかし問題が解消されたわけではない。東シナ海の排他的経済水域をめぐる紛争で対日批判がまた激化する可能性も残っている。

中国はなぜあの60年前の歴史にこんなにこだわるのか、という声があるかもしれない。侵略戦争の最大の被害者だった中国において、一億人単位の戦争遺族が生きており、日本軍が遺棄した化学兵器はまだ未処理のまま、従軍慰安婦や強制連行に関する訴訟も進行中だ。この「歴史」は中国ではいわば「現在進行形」なのだ。日本でも毎年、被害者として広島原爆、沖縄戦で記念行事を行っているが、中国や韓国に対しては加害者だった一面は今後も忘れるべきではないだろう。

日本政府と政治家の歴史認識に大きな変化が生じていることは中国などで懸念されている。二十年前なら侵略戦争の責任を否定する発言をした大臣が即座解任されたが、今は日本の戦争処理のシンボルだった東京裁判の結果を否定する発言をした政務官すら、「個人的見解」として責任を追究されなくなっている。

しかし日本国民のバランス感覚を信じたい。中国側は戦後日本の平和路線、今日日本の民主主義をもっと理解すべきだ。一方、日本側も、急速に変貌する中国の社会を理解し、対日批判が出るたびに「愛国教育のせい」「権力闘争の結果」といった古い分析枠を中国に当てはめず、日本側の原因も考えて冷静に対応すべきだ。日本と中国は今後、どちら側も覇権国家になり得ない。そして東アジア共同体の形成にはともに責任ある立場にある。両国とも、両国民やアジア、世界への大局的責任感をもって、感情的対立を早急に解き、東シナ海問題では打開策を見つけ、友好・信頼関係を推進すべきだ。

- 4月29日 中国宋慶齡基金会に連絡：坪楽小学校建設支援第2回送金の事前確認
- 5月1日 上海宋慶齡基金会に連絡：賞郎小学校建設支援第2回送金の事前確認
- 5月3日 認定法人申請書類を新様式に修正、添付資料作成
- 5月7日 第6回JCC中国講座：朱建栄氏「胡錦濤主席の挑戦—中国の社会・政治の地殻変動を見る」
- 5月18日 東京国税局訪問：認定法人申請手続き関係
- 5月21日 第25回事務局会議：貴州省凱里市賞郎小学校・寧夏回族自治区固原県坪楽小学校建設支援両訪中団について
- 5月26日 I. エプシュタイン氏逝去（北京）
- 6月16日 上海宋慶齡基金会に送金：賞郎小学校建設支援100万円（第2回）
中国宋慶齡基金会に送金：坪楽小学校建設支援100万円（第2回）
- 6月25日 第26回事務局会議：認定法人申請、05年度下半期日程案について
- 7月12日 上海宋慶齡基金会に送金：50万円／賞郎小学校建設支援—「机と椅子」420人分・教卓9・書棚9・新華字典420冊（41万円）、図書セット・時計（9万円）
中国宋慶齡基金会に送金：43万8000円／易県の中学に対する「机と椅子」300人分（37万8000円）、日中友好神奈川県婦人連絡会の「興隆回族女子職業教育センター」に対する支援（6万円）
- 7月12日 中国宋慶齡基金会よりEMS：「机と椅子」寄贈先中学校の説明
- 7月19日 認定法人申請書類を八王子税務署に提出
- 7月23日 第27回事務局会議：第9回理事会開催について
- 8月10日 上海宋慶齡基金会よりEMS：賞郎小学校建設状況報告書と写真
井岡さん、河北省易県で「机と椅子」支援の現地調査
- 8月11日 日本華人教授会議ほか主催の国際シンポジ

ュウムに参加

- 8月12日 中国宋慶齡基金会よりEMS：坪楽小学校完成報告と写真、内蒙古奨学金受給生名簿
- 8月16日 中国宋慶齡基金会よりFAX：寧夏回族自治区固原師範専科奨学生新2年生名簿
- 8月17日 上海宋慶齡基金会に送金：賞郎小学校建設支援100万円（第3回）
- 8月18日 中国宋慶齡基金会よりメール：「寧夏・興隆女性職業教育訓練センターは、いかなる物品よりも、石炭を購入することを必要としている」（日中友好神奈川県婦人連絡会高良会長は、教材支援金5万円の用途について、「雪中に炭を贈ること」に同意）
- 8月19日 中国宋慶齡基金会に送金：206万円
① 坪楽小学校建設支援（150万円／第3回）
② 固原師範専科奨学金（36万円）
③ 内蒙古奨学金（20万円）
- 8月21日 第28回事務局会議：第14次訪中など
- 8月22日 中国宋慶齡基金会に送金：123万6000円／坪楽小学校建設追加支援（東京代々木LC）
- 8月26日～30日 第13次訪中団（東京代々木LC・田中彰団長ら13名）、寧夏回族自治区固原県を訪問、坪楽小学校校舎竣工式に参加
- 9月3日～10日 第14次訪中団（須藤名誉団長・久保田団長ら9名）、貴州省凱里市を訪問、賞郎小学校校舎竣工式に参加
- 9月20日～21日 認定法人申請に関わる東京国税局の調査（JCC事務所）
- 9月24日 第29回事務局会議：訪中報告、理事会議案等
- 10月2日 第9回理事会：05年度上半期及び9月末現在までの事業経過について（八王子市学園都市センター）
- 10月20日～26日 第15次訪中団（諏訪団長ら10名）
上海国際幼児教育研究交流大会に参加
- 10月21日～27日 第16次訪中団（久保田団長ら6名）
世界宋慶齡基金会主席フォーラムに参加
- 11月3日 JCCチャリティー・バザー（からまつ保育園）
- 11月10日 “為了明天” 第10号発行

編集 後記

日本各地から温かいご支援をお寄せくださる皆様に、心からの感謝をこめて「JCCニュースNo.10」をお届け致します。当会は、今年も寧夏・貴州省、また河北省等の僻地を訪れ、着々とプロジェクトを進め、草の根の握手握手を交わしました。政治や外交の軋みは辛く、残念ですが、私共は、ひとえに日中の子どもたちの未来の為に、平和と友好の種を蒔き続けたいと思います。寒さの加わります折柄、皆様何卒ご自愛を！ お互い元気に過ごしましょう。（三浦）

「為了明天」No.10

題字：周肖

2005年11月10日発行

編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
久保田博子

〒192-0904 東京都八王子市市安町1-43-6-206

TEL/FAX 0426-46-4210

郵便振替：00170-2-152423

UFJ銀行八王子支店（普通）4731623